KINGCA WEEK 2025 に参加して

獨協医科大学　上部消化管外科
落合　貴裕

この度，日本胃癌学会の参加助成により 2025 年 9 月 25 日から 9 月 27 日に行われた KINGCA WEEK 2025 に参加させて頂く機会を頂戴いたしましたので，ご報告します.

私は宮崎大学医学部付属病院外科学講座に入局し、2024 年までは宮崎で勤務しておりました。腹腔鏡、ロボット支援手術や胃癌手術に対しての経験が少なく、2025 年 4 月より希望して獨協医科大学の小嶋教授の元に国内留学をしております。2023 年に 1 か月当科を見学させて頂いた際にも、小嶋教授の勧めで KINGCA WEEK 2023 に参加しました。今回は発表もしてみては、ということで Oral Presentation に応募し、幸いにも採択頂き参加する運びとなりました。

私の発表は「Evaluation of Reconstruction Methods Following Robotic Proximal Gastrectomy: A Retrospective Analysis」でした。本研究では、当院で施行したロボット支援噴門側胃切除術を対象に、Double-Tract　reconstruction と Esophagogastrostomy with Toupet-like fundoplication の吻合法による短期・長期成績の比較し、その有用性を発表しました。海外での口頭発表は初めての経験であり、英語も得意ではなかったため、何度も練習を重ねて臨み、何とか発表を終えることができました。質疑応答では、質問内容を正確に聞き取れているか不安に感じる場面も多く、英語での受け答えに苦労しましたが、同世代や若手の先生方が非常に流暢に発表されており、大いに刺激を受けました。今後は英語での発信力を磨き、論文執筆や国際学会発表に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

また、「Joint Symposium with KSGIS: Recent Issues related to Proximal Gastrectomy」セッションを拝聴し、再建法や術後管理に関する最新の知見を学ぶことができました。特に、Double-Tract 再建と Double-Flap 法の比較、再建法が残胃癌や内視鏡フォローアップの難易度に及ぼす影響、進行胃癌における PG の適応拡大などが議論され、自身の発表テーマである R PG 後の再建法比較においても多くの示唆を得る非常に有意義なセッションでした。

韓国では胃癌手術の集約化が進んでおり、施設ごとの症例数の多さや、発表で示された手術動画の完成度の高さに非常に感銘を受けました。自分自身も今後さらに技術を高め、より多くの症例を経験していく必要があると感じました。本来であれば Master class への参

加も希望しておりましたが、今回は希望していた施設での見学が叶いませんでした。次回はぜひ Master Class にも参加し、現地での手術や教育体制を直接学びたいと考えています。

世界各国の発表を通じて、胃癌手術における多様な考え方を学び、自分の視野を広げる貴重な機会となりました。今回の発表および学会参加を通じて得られた知見を、今後は所属施設、そして将来的には宮崎での手術や研究活動に還元していきたいです。

最後になりますが、このような貴重な機会を頂きました日本胃癌学会理事長・掛地吉弘先生、国際委員会委員長・竹内裕也先生をはじめ、日本胃癌学会の関係者ならびに事務局の皆様に、心より御礼申し上げます。あわせて、国際学会参加の機会を与えてくださり、日々ご指導を頂いている獨協医科大学の小嶋一幸教授ならびに上部消化管外科医局の先生方、さらに宮崎大学外科学講座の先生方にも、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

発表時の様子

Shaping the Future of Gastric Cancer Treatment
KINGCA WEEK 2025
2025
KINGCA WEEK

発表後の記念撮影